

足元の相場解説と過去10年の GWの値動き・アノマリー

2019年3月20日

こころトレード研究所

坂本 慎太郎

簡単に自己紹介を

- 証券会社で株のディーラーを6年間、かんぽ生命保険に転じ、債券と株のファンドマネージャーを7年経験し独立
- 機関投資家、ディーラー、個人投資家の『六つの眼』を持つ
 - ➔ ラジオ日経や日経CNBC出演、マネー誌などでプロの経験や個人投資家動向など生の情報をコメント
 - ➔ 自分の頭で考える「脱イナゴ」をテーマに活動



(日経CNBC)



(東洋経済新報社)

『朝9時10分までにしっかり儲ける板読み投資術』
『脱イナゴでしっかり儲ける20銘柄バスケット投資術』

『伝説のトレーダーに50万円を1億円にする方法をこっそり教わってきました。』(SBクリエイティブ)



GW～年末までの注意点

- 世界的な景気のピークアウト懸念
- 業績のピークアウト
 - 米国：業績の鈍化
 - 日本：2年連続の前期比減益になる可能性
- 円高
- 4つのリスク

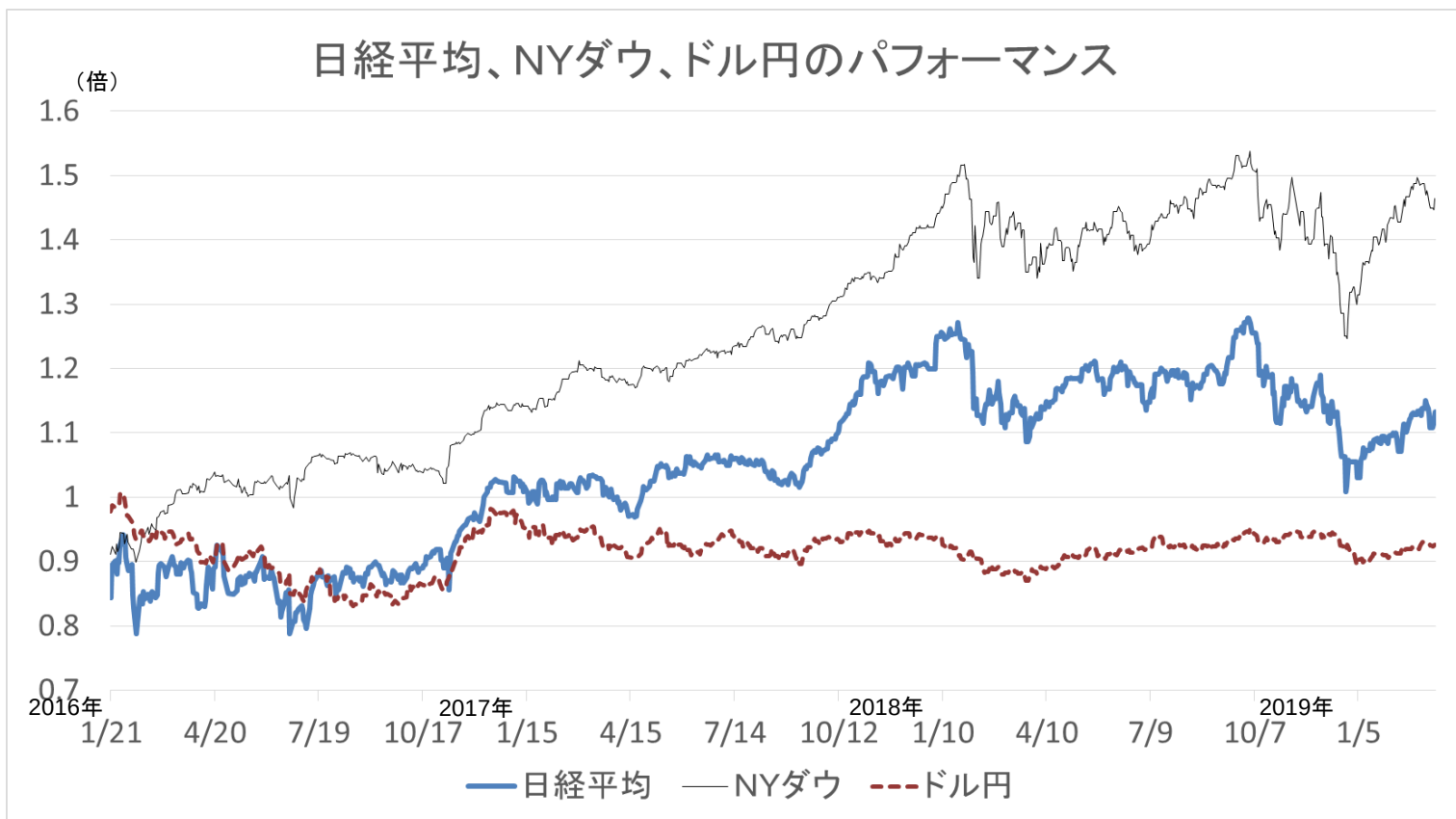
見通し

- 米国の貿易摩擦問題と金融政策の綱引き
- 米国の金融政策変更の影響に注視

	日		米		欧州	
	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年
株						
債券						
為替 (自国通貨が弱い →晴れ)						

日米の株価推移

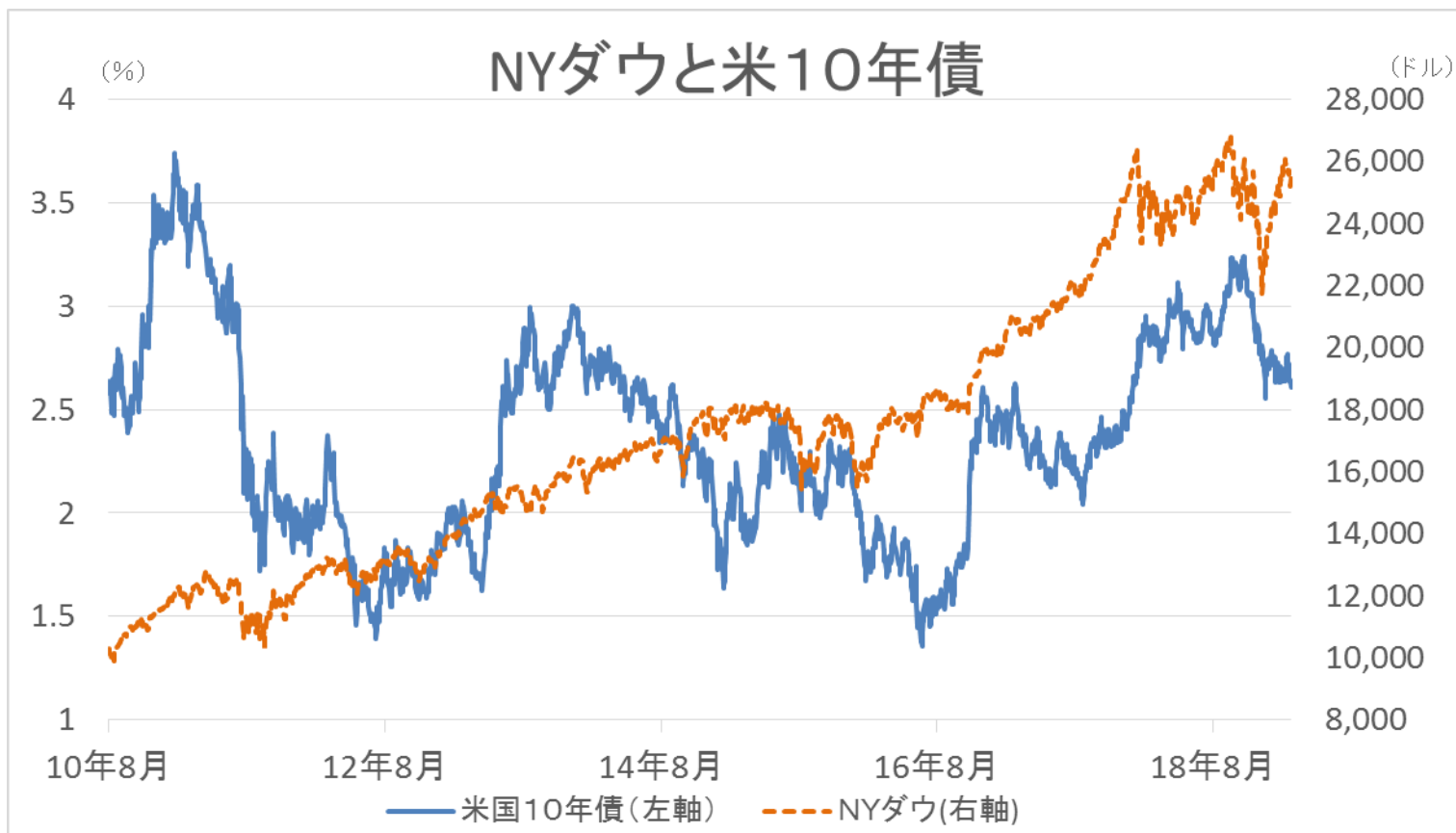
- 昨年は二回の高値の後、大きな調整となった
- 日本株も戻りを試すも米国株とのパフォーマンスの差が大きい



(※2015年末を1)

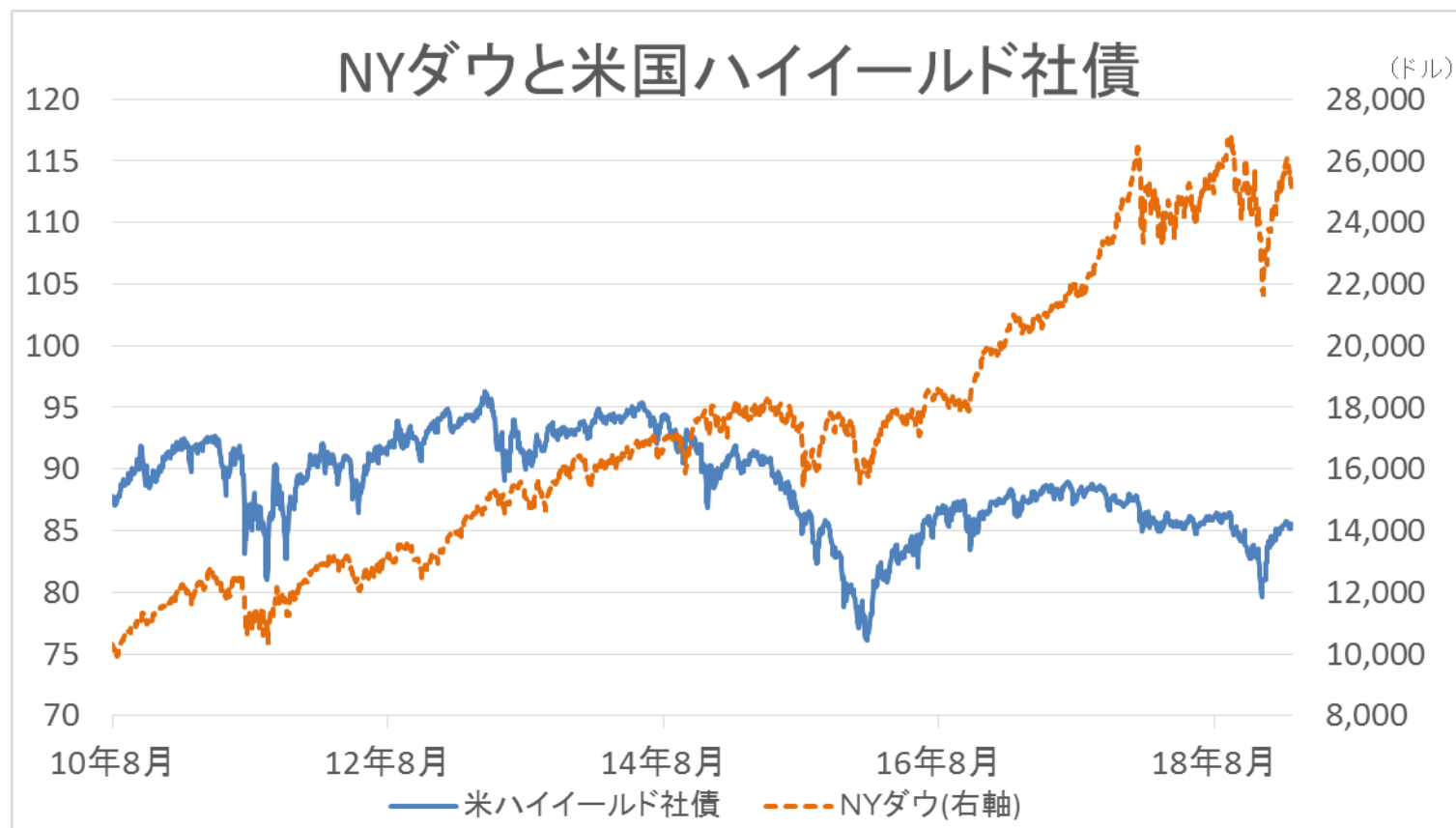
米国債の金利動向に留意

- 今年は利上げはない想定、今後利下げを折り込むと金利低下
- 3.2～3.3%、3.6～3.7%のフシがチェックポイント



リスクオン・オフは何で見る？

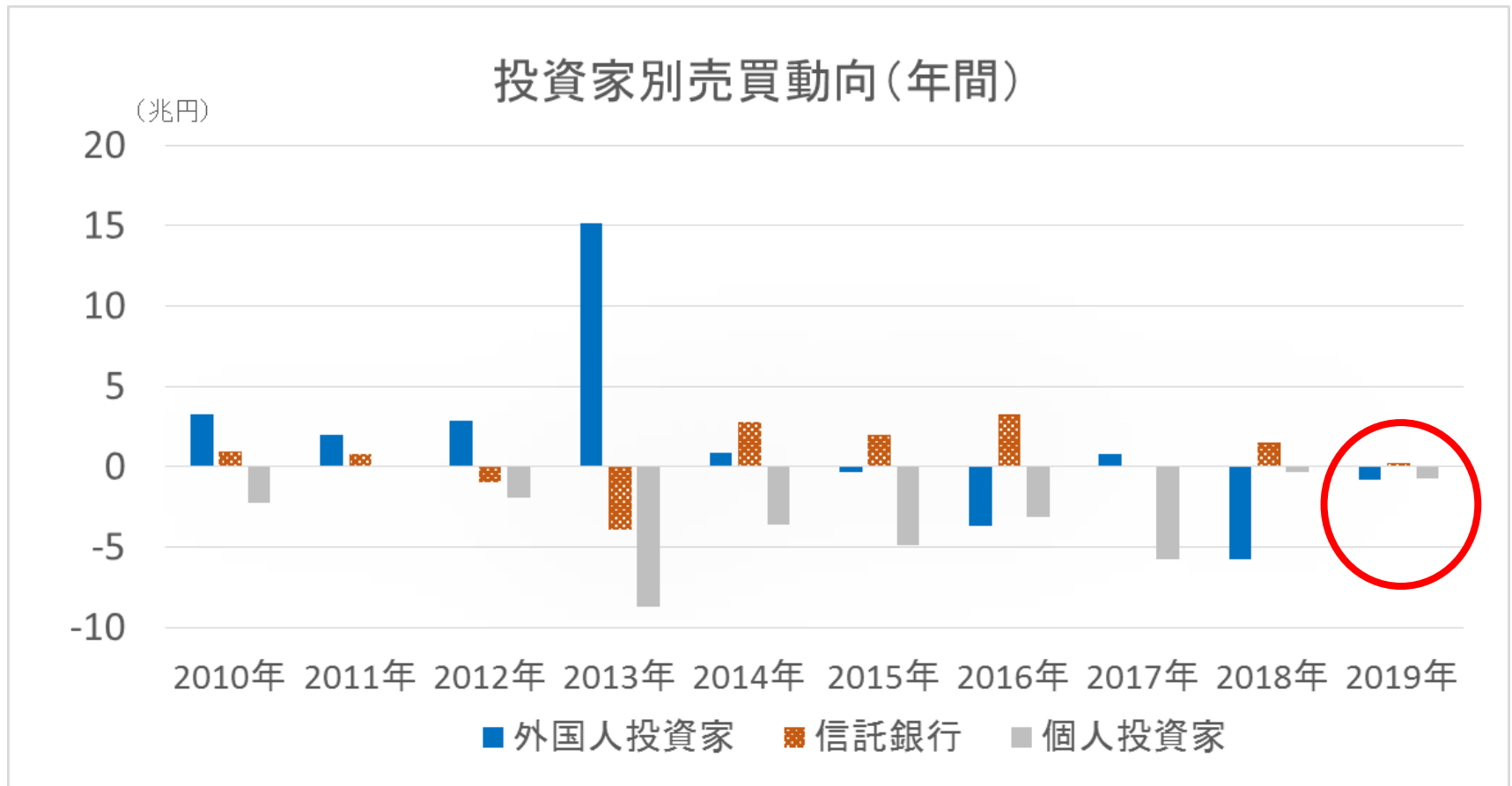
- 米国のハイイールド債を定点確認してリスク許容度を確認
- 低ボラティリティで格付けの低い債券に資金が大量に流入



(こころトレード研究所作成)

投資家別売買動向

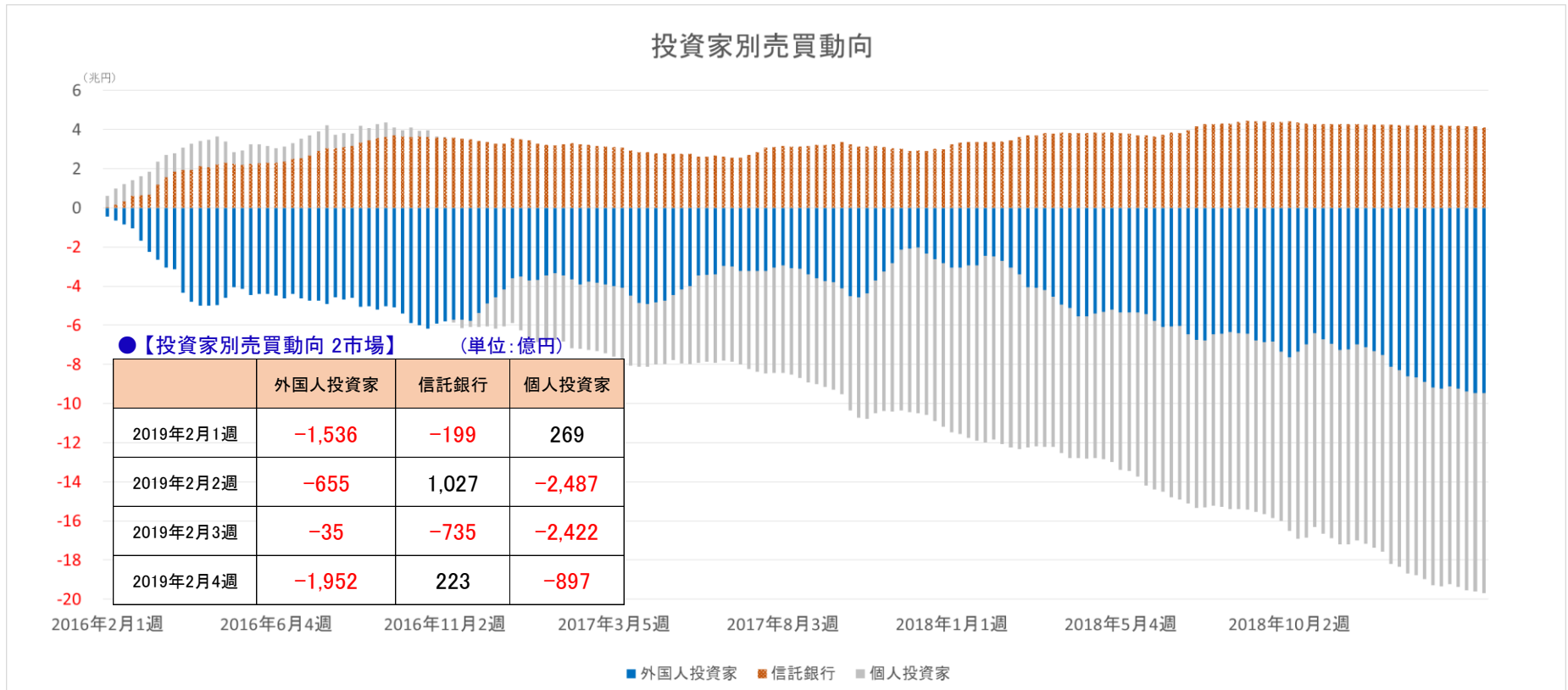
➤ 外国人投資家: 売り越し続く 個人投資家: 今年は買い出動



(出所: 日本取引所グループ)

投資家別売買動向

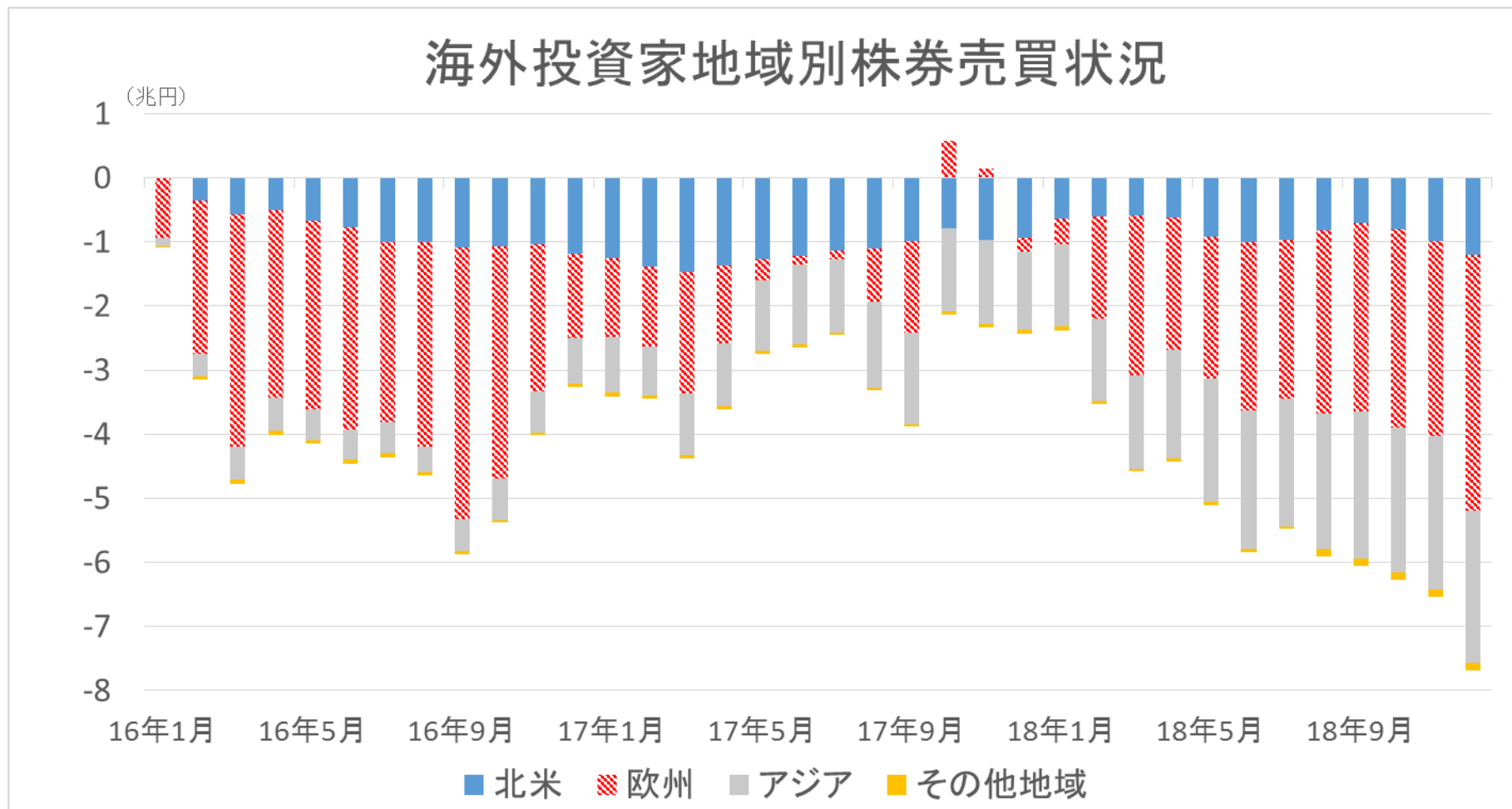
- 昨年は一年を通して外国人投資家の売りが続いた
- 今年も外国人投資家動向、GPIFのポートフォリオ変更に注目



(出所: 日本取引所グループ「投資部門別売買動向」よりこころトレード研究所作成)

投資家別売買動向（外国人地域別）

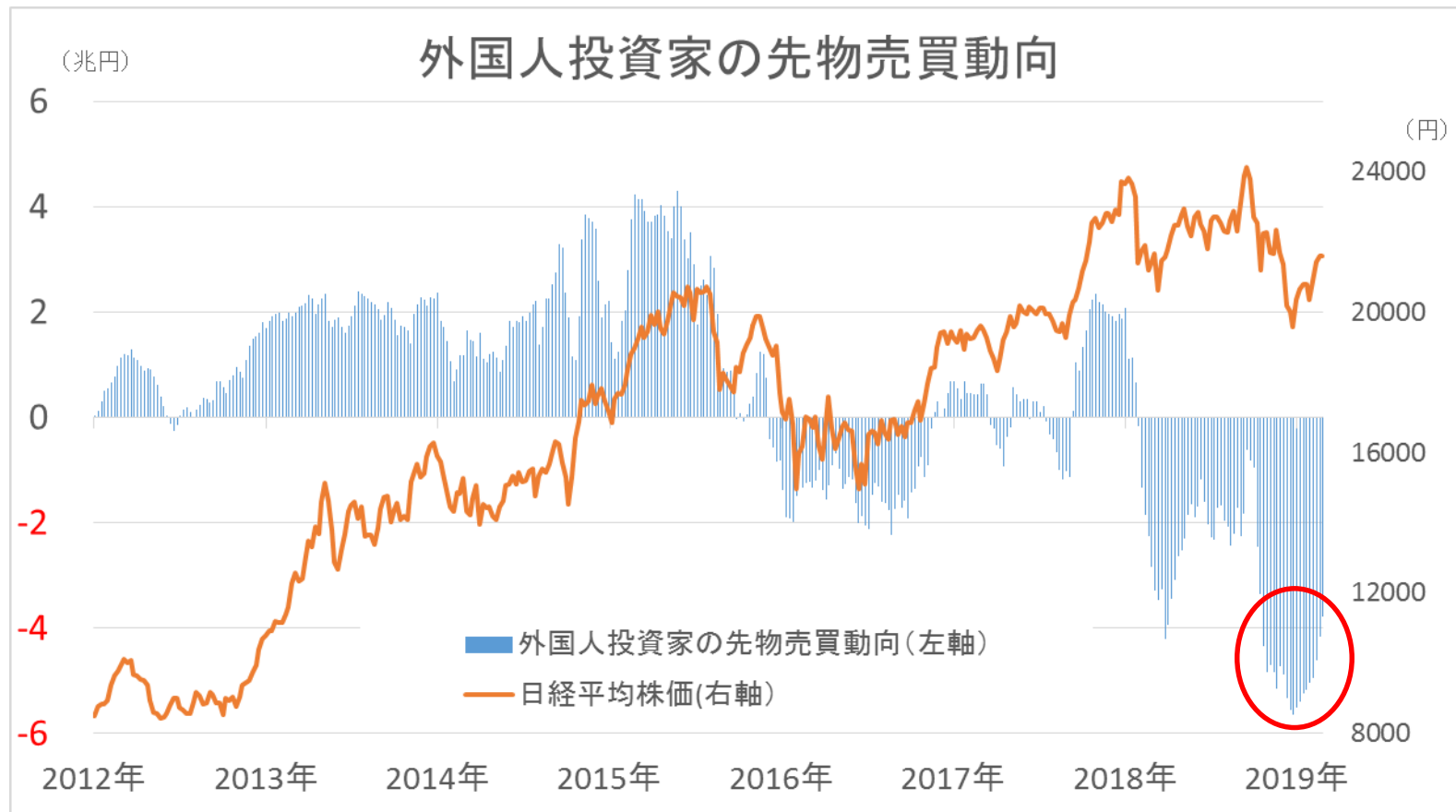
➤ 欧州系（オイルマネー？）の動向に注目



(出所: 日本取引所グループ「海外投資家地域別株券年間売買状況」よりこころトレード研究所作成)

先物売買動向(外国人投資家)

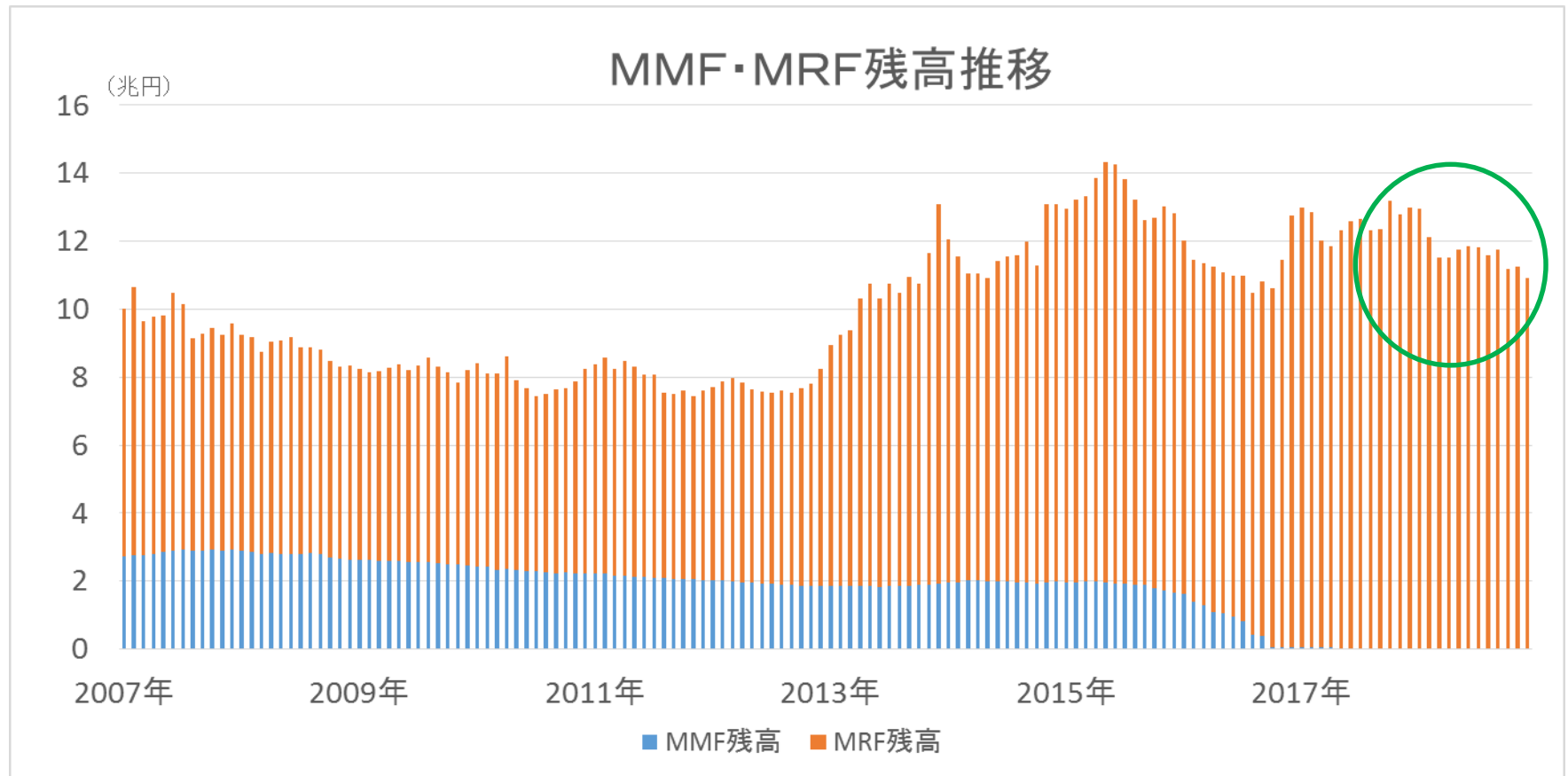
- 昨年は外国人投資家が約7.5兆円売り越し
- 足元は外国人投資家の買戻しが進む



(出所:JPXよりこころトレード研究所作成)

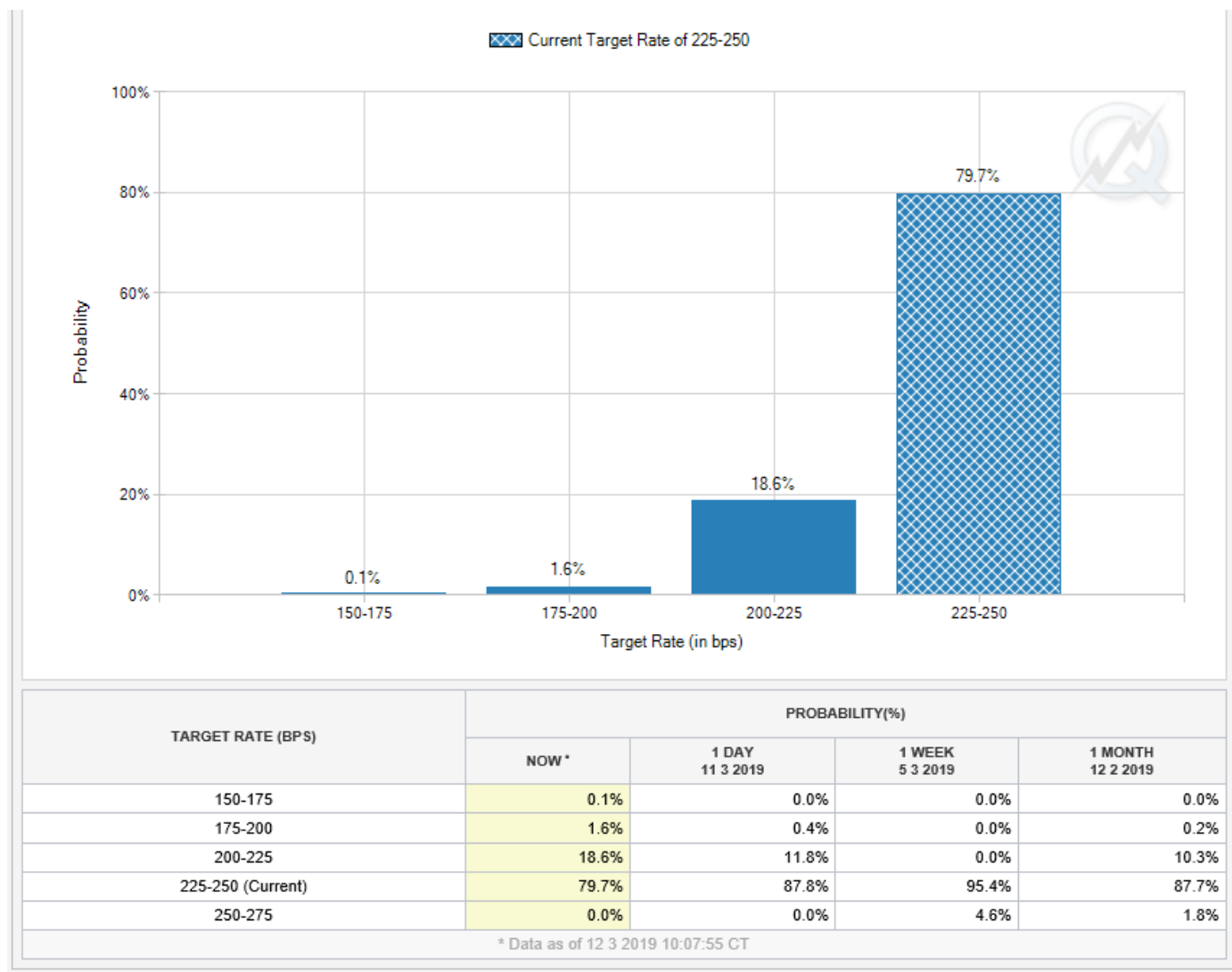
投資家別売買動向（MRF・MMF資金滞留動向）

- 年末の個人投資家の売り越しが証券口座に滞留
- 下落局面では押し目買いの可能性も



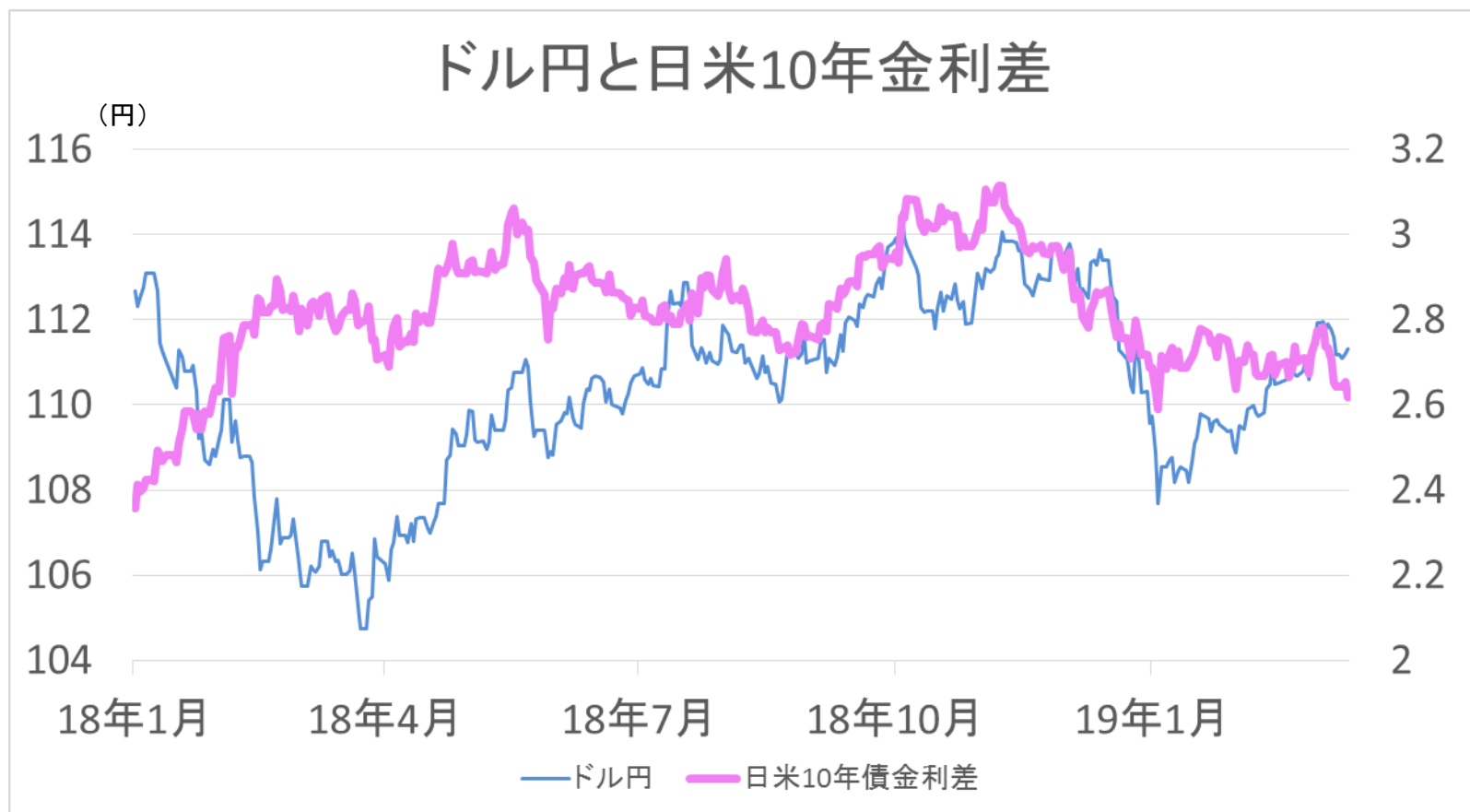
(出所:投資信託協会「公募投資信託の資産増減状況」よりこころトレード研究所作成)

FEDWATCH 12月見通し 3月13日



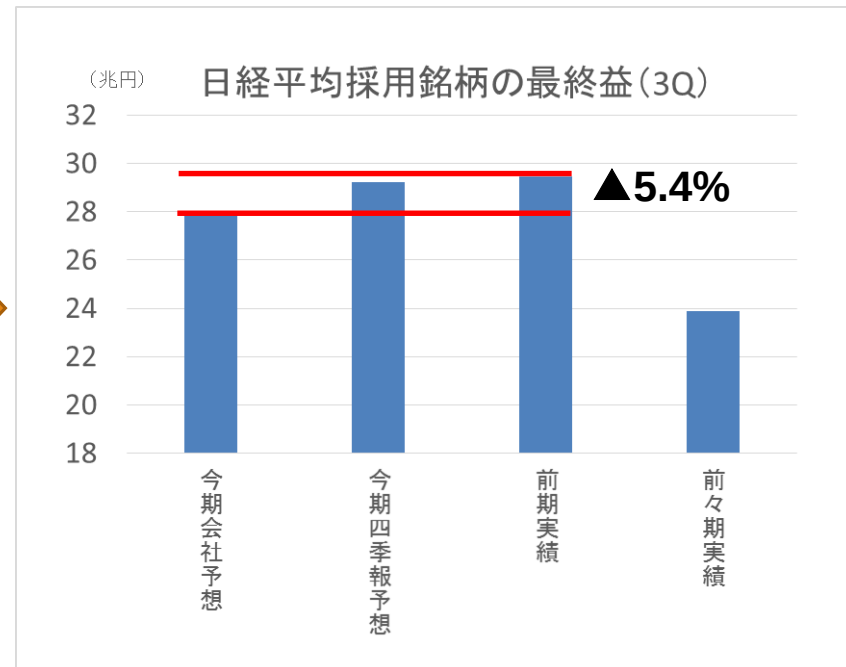
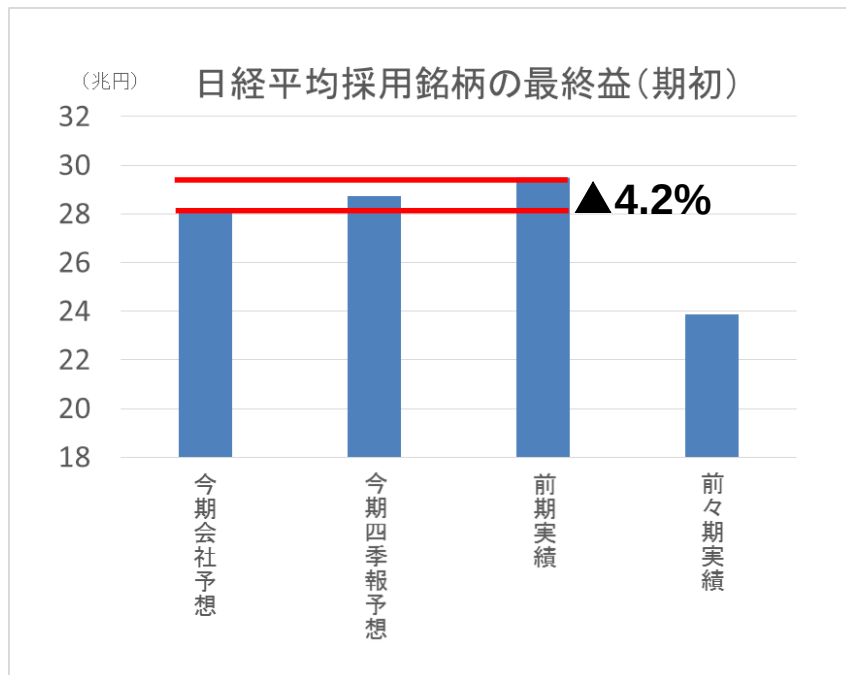
日経平均株価とドル円レート

- 教科書的には日米金利差の拡大は円安要因
- 利上げ打ち止め感で米債の金利が低下→円高？



期初からの業績予想の変化

- 業績は前期比▲4.2% (期初) ➡ ▲2.0% (2Q) → ▲5.4% (3Q)
- 市況を反映してエネルギー資源、薬品セクターが上方修正、一方、非鉄株や電力・ガス株が下方修正
- 今期は前期比でマイナスの着地が濃厚



(出所: 各会社予想等から作成)

4つのテールリスクに留意

- リスクが顕在化した際にいくつかのリスクが複合すると大きな調整となる可能性も
- 直近はトランプ大統領発言と米中貿易摩擦問題に警戒

欧州リスク

(政治、金融機関、
ブレグジット)

中国リスク

(為替、理財商品等)

トランプリスク

(保護主義政策、
移民問題、発言等)

地政学的リスク

(中東、米国と中国、地震)

今年の株式市場

● 急に来るリスク回避局面に留意、材料株、配当

- 米国は景気は今年いっぱい持つかもしれない、業績不安
 - 景気：経済指標は強弱まちまち。後退と判断するまで最低3か月程度の時間を要する
 - 業績：4月半ばに発表される米1Q決算に留意
今期予想は去年の二割増益から一ケタ後半に後退
- 日本は上値重い、強い米国とのパフォーマンス差は業績
 - 日本は期初から前期比マイナスで推移、米国は連続増益
 - 3Q決算で下方修正、期初予想より業績が悪化→業績懸念
 - 下値は日銀・個人・信託の需給面とPBRがサポートか
- 株価調整には十分注意
 - 業績のピークアウトは相場の変調、円高、4つのリスクに留意

GW前後の過ごし方、対処法

➤ トピックGWは10連休

→ 10連休のうち海外は6日間の営業日

→ 月末月初の指標ラッシュの時期

→ 連休明けに大きなギャップの可能性

→ 中長期投資家の対応が必要？

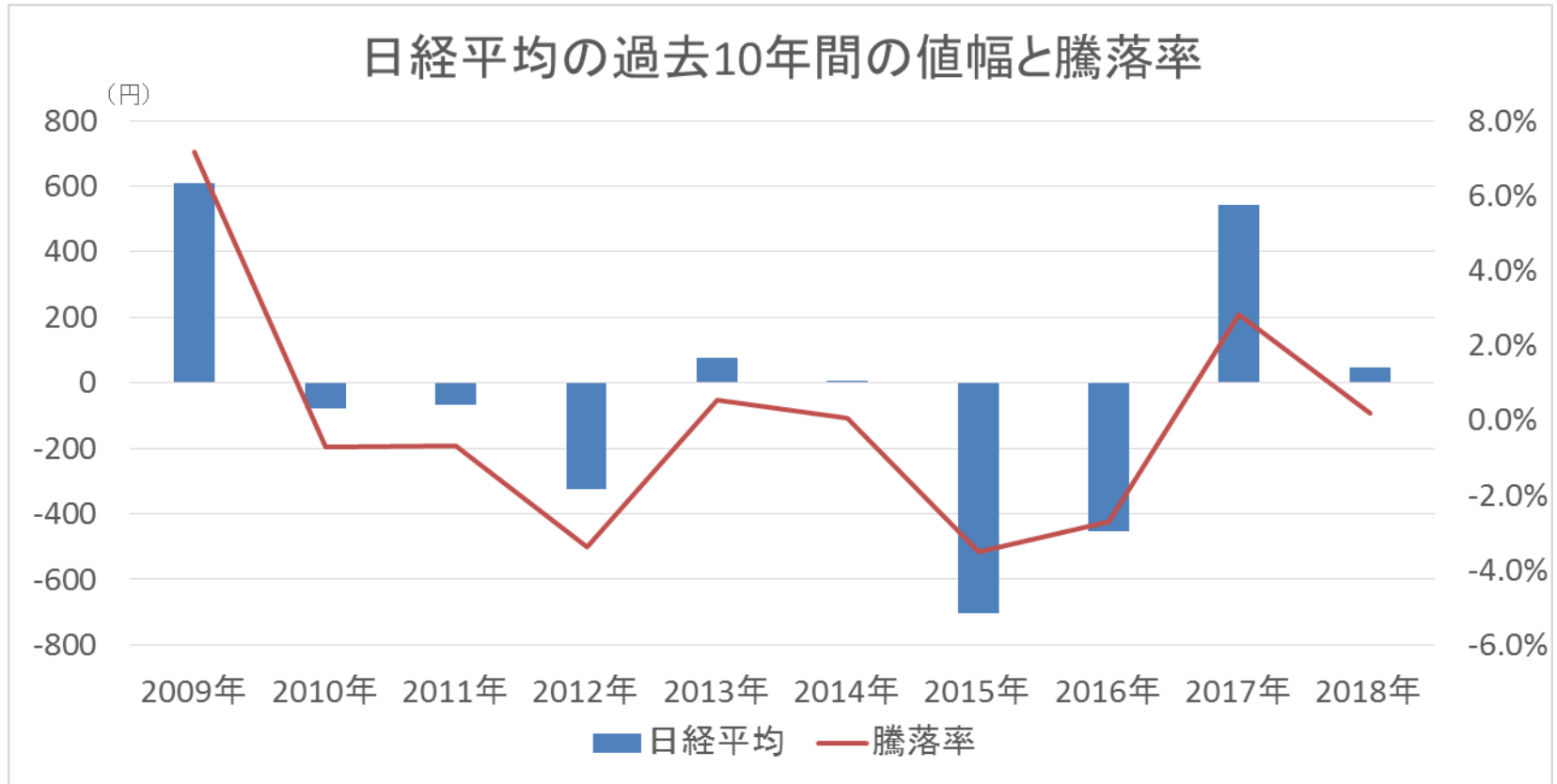
➤ 対応策

→ ポジションを減らす

→ ヘッジをかける

過去10年間のGW中の日経平均株価の推移

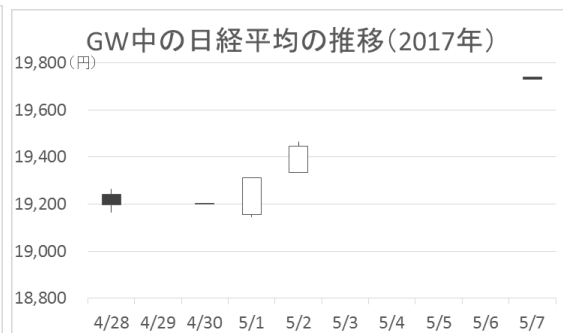
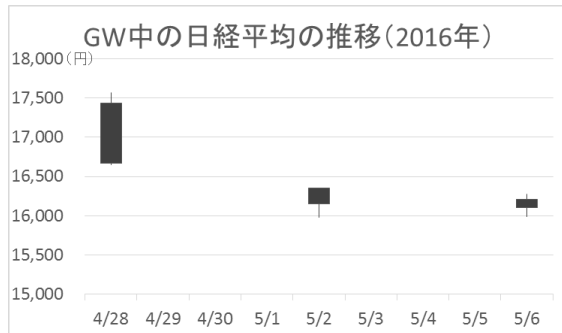
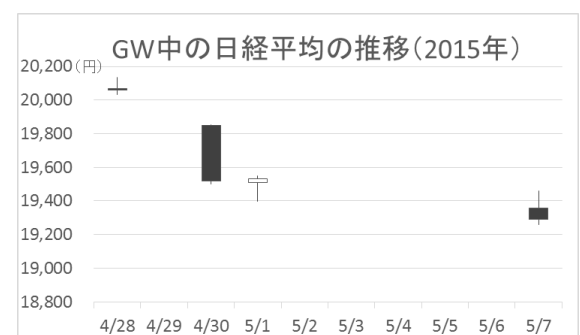
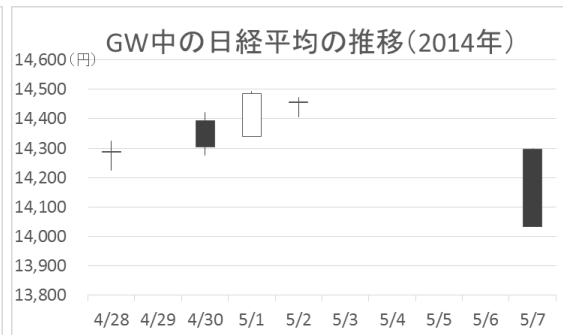
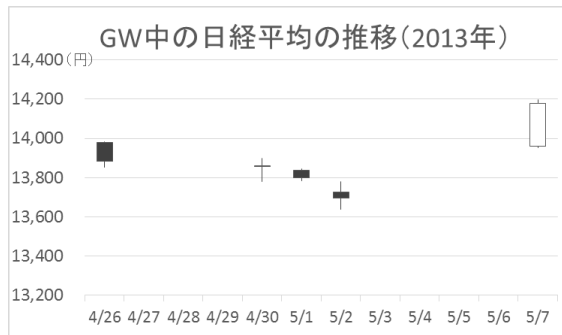
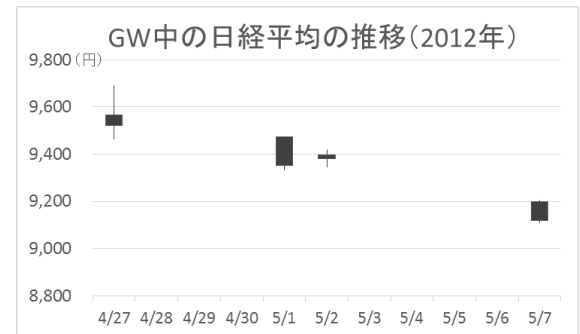
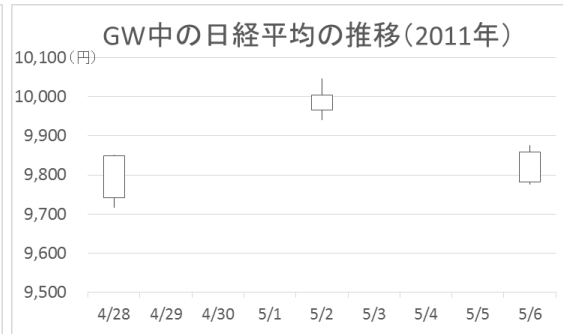
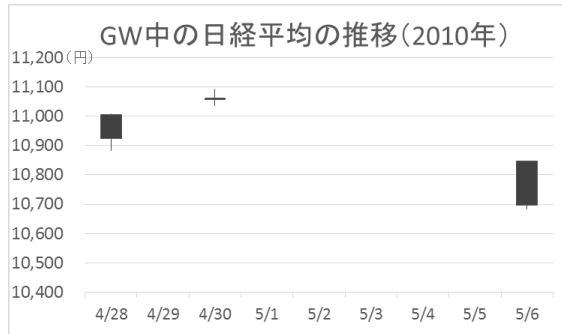
➤ GW10年間の日経平均の騰落は**5勝5敗**。大きな値幅も



	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
日経平均	608.58	-76.89	-68.74	-322.72	75.91	8.02	-702.49	-453.38	542.26	45.35
騰落率	7.2%	-0.7%	-0.7%	-3.4%	0.5%	0.1%	-3.5%	-2.7%	2.8%	0.2%
NYダウ	488.72	-120.75	-105.58	-190.04	256.34	37.82	-193.92	-363.17	19.55	-79.63
騰落率	6.2%	-1.6%	-1.4%	-1.3%	1.0%	-0.3%	-1.5%	-1.0%	0.3%	-0.2%

過去10年間のGW中の日経平均株価の推移

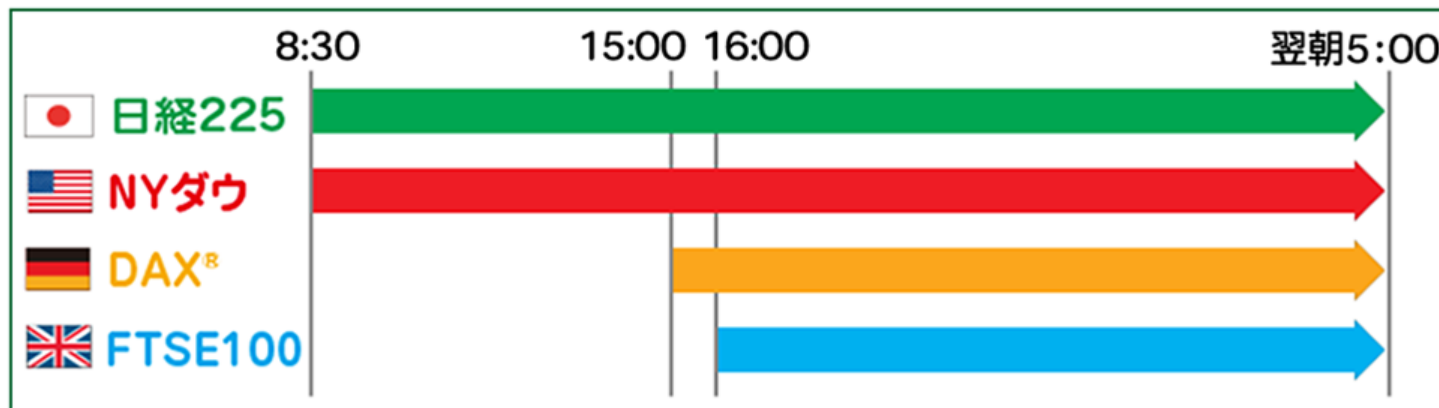
➤ (参考): ギャップの確認用



ほぼ24時間、祝日でも取引できる！



＜米国NY州サマータイム適用期間における取引時間＞



※米国ニューヨーク州非サマータイム適用期間は翌朝6:00まで

今年のGWは10連休、重要イベントが目白押し

2019年のゴールデンウィークのカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
4/21	22	23	24	25	26	27
		国内株式市場は10連休				
28	29 	30	5/1 	2	3 	4 
	昭和の日	休日	即位の日	休日	憲法記念日	みどりの日
5 	6	7	8	9	10	11
こどもの日	振替休日					

くりっく株365なら
祝日も取引可能！



● GW中に発表される主な指標

日付	時刻	国	イベント
4/26(金)	21:30		1-3月期 四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
4/29(月)	21:30		3月 個人消費支出
5/1(水)	23:00		4月 ISM製造業景況指数
"	27:00		米連邦公開市場委員会(FOMC)、政策金利発表
5/3(金)	21:30		4月 雇用統計
"	23:00		4月 ISM非製造業景況指数

インデックス投資戦略：配当狙い

● 買いポジションは配当が受け取れる ※DAXを除く

	買いポジション	売りポジション
金利相当額	支払い	受取り
配当相当額	受取り	支払い

※金利相当額については、ポジションをロールオーバーした際に発生します。

※配当相当額については、権利付最終日にポジションをロールオーバーした際に発生します。



2017年の配当相当額実績

 日経225	年間11回 計 34,916 円 / 1枚あたり 2017年12月末時点の必要証拠金 41,110円 (1枚あたり)
 NYダウ	年間76回 計 51,576 円 / 1枚あたり 2017年12月末時点の必要証拠金 40,540円 (1枚あたり)
 FTSE100	年間46回 計 29,113 円 / 1枚あたり 2017年12月末時点の必要証拠金 10,500円 (1枚あたり)



2018年の配当相当額実績

 日経225	年間8回 計 40,834 円 / 1枚あたり 2018年12月末時点の必要証拠金59,300円 (1枚あたり)
 NYダウ	年間72回 計 56,692 円 / 1枚あたり 2018年12月末時点の必要証拠金 58,580円 (1枚あたり)
 FTSE100	年間49回 計 30,945 円 / 1枚あたり 2018年12月末時点の必要証拠金26,000円 (1枚あたり)

※金利相当額の支払い額が、配当相当額の受取り額を上回る場合があります。

インデックス投資戦略：配当狙い

● 3月と9月は日経225の配当に着目

➤ 日経225(日経平均株価)

→ 配当が集中している月(3・9月)に着目した投資

● 日経225 証拠金取引

日次の配当相当額、金利相当額を月ごとに集計した金額(1枚あたりの金額)

2017年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1年間の 合計
配当 相当額	144円	1,168円	13,235円	0円	11円	2,612円	141円	1,152円	13,121円	0円	0円	3,332円	34,916円
金利 相当額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

2018年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1年間の 合計
配当 相当額	174円	1,218円	15,833円	0円	0円	2,940円	145円	1,374円	15,500円	0円	0円	3,650円	40,834円
金利 相当額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

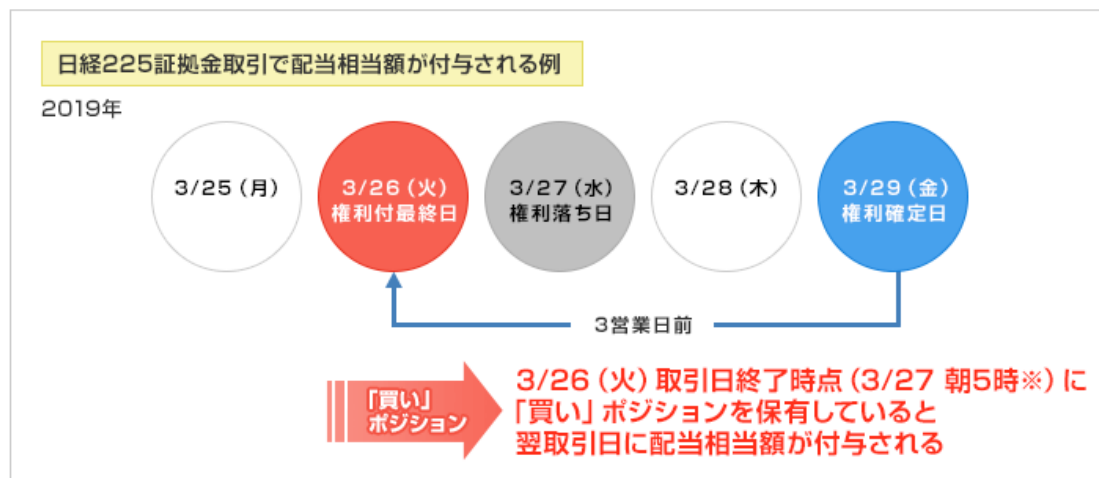
※2018年12月末時点の必要証拠金 59,300 円(1枚あたり)

インデックス投資戦略：配当狙い

● くりっく株365は配当戦略が可能な指数取引です

➤ 配当のしくみ

- 日経平均先物と異なり指数取引で配当を受け取れる
- 日経平均の配当は権利付最終取引日の翌取引日に付与



※ 権利付最終日が米国ニューヨーク州サマータイム非適用期間かつ欧州サマータイム非適用期間の場合は朝6時です。

ポイント！

現物株が配当を受取るまでに時間がかかるのと比べ、「くりっく株365」では権利付最終日と同じ取引日の終了時に買いポジションを保有していれば、翌取引日に配当相当額を含み益として受取ることができます。



インデックス投資戦略：配当狙い

➤ 昨年3月の取引事例

2018年3月26日～30日の「日経225証拠金取引」事例

約定日	約定時間	売買	数量（枚）	約定価格	配当相当額	金利相当額
3月26日（月）	16:01	新規買い	1	20,826円	0円	0円
3月27日（火） 権利付最終日					15,833円	0円
3月28日（水） 権利落ち日					0円	0円
3月29日（木）	15:06	決済売り	1	21,366円	0円	0円
3月30日（金） 権利確定日						

配当分相当額
が貰えた上に
利益も！

※相場の変動により利益は変わります

証拠金預託額	200,000円	（1枚あたりの必要証拠金は96,000円）
配当相当額（受取り）	15,833円	（26日～28日の3日分）
金利相当額（支払い）	0円	（26日～28日の3日分）
売買益	54,000円	$(21,366円 - 20,826円) \times 100円 \times 1枚$
手数料	306円	（1枚あたり片道153円）
決済損益額合計	69,527円	$(54,000円 + 15,833円 - 0円 - 306円)$

（出所）：岡三オンライン証券HP

日経平均とNYダウの乖離に注目

- NYダウと日経平均の乖離が広がっている
- 原因は業績の差だがロングショート取引のチャンスか？



注意事項

各種情報の内容については万全を期しておりますがその内容を保証するものではありません。

当セミナーを利用することによって生じた不利益・争議等は当方は一切責任のないものとし、関知致しません。

予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

当セミナーは一般情報の提供を目的にしており、投資の勧誘を意図するものではありません。

投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願いいたします。